

## 図書館における創業支援と創業支援を通じた緩やかなつながりの実現に向けて

鈴木 彩子

中野区立中野東図書館

### 1. はじめに

中野区立中野東図書館は2022年2月1日にオープンした新しい図書館である。中野坂上駅から徒歩2分、10階建ての区の複合施設「みらいステップなかの」の7階から9階を占める。ビジネス支援をテーマとする9階ビジネス・コミュニティフロアは、飲食・会話が可能なコワーキングコーナー（プレゼンテーションコーナーとしての利用も可能）、ミーティングルームを備え、新聞やマーケティング情報等のビジネスに役立つ11種類の商用データベースも利用できる。

中野区は東京23区の西の方に位置し、人口は約33万人。世帯の半数以上は単身世帯で、20歳代・30歳代の若年層の転入者が多く、人口の大きな割合を占めている。そして、中野東図書館がある中野坂上駅周辺は、オフィス・店舗・住居などが集積し、在住・在勤、通勤・通学、買い物をする人等、仕事と暮らしが交わる地域である。

新図書館の運営計画を策定するにあたり、中野区民へ行った意識調査によると、図書館のビジネス支援として、①情報・人が集まる空間、②相談できる人、を求めているという結果が出た。こうした立地・利用者層・意識調査を踏まえた中野東図書館における創業支援を考えていきたい。

### 2. 社会的背景と課題

岸田首相は2022年の年頭記者会見で今年を「スタートアップ創出元年」とすると表明し、スタートアップ5か年計画を設定するとしている<sup>1)</sup>。また、これに先立つ2017年の「働き方改革実行計画」では“柔軟な働き方がしやすい環境整備”が挙げられ<sup>2)</sup>、これを踏まえ2018年には副業・兼業促進のガイドラインが定められた<sup>3)</sup>。こうした政府の政策的な後押しに加え、コロナ渦によるテレワークなどの働き方の変化により、起業や副業を始める機運が高まっているといえる<sup>4)5)</sup>。

一方でコロナ渦以前より、議論しながら、ときに飲食しながら利用できるコワーキングスペースを図書館に望む声は多く、これは外出先での作業環境が不足していることに起因しているものと思われる。また、中野区では、20～30歳代の転入者が多い反面、転出者も多く流動性が高いことから、若い世代になるほど地域とのつながりが生まれにくい状況となっている。コロナ渦により、作業環境の不足と社会とのつながりの減少はより顕著になっている<sup>6)</sup>。

そこで、“創業支援と創業支援を通じた緩やかなつながりの実現”を目指し、以下の事業を

提案する。

### 3. 事業計画

#### 3-1 区内産業支援機関との連携

図書館での事業を行うにあたり、第一段階として区内の関連機関との連携は欠かせないものである。中野区では、民間企業やNPO（産）、大学などの教育研究機関（学）、国や都、区などの行政機関（公）、金融機関（金）が相互の強みを活かして連携し、重点産業の振興と地域産業の活性化を図る施策を実施している。

しかしながら、上記「産学公金の連携」の「公」のひとつとして図書館が想定されているとはいえ、実際、区が実施している産業振興策においても図書館が連携した実績は見当たらない。中野区立図書館の今までのビジネス支援は、中央図書館参考資料室のレファレンス機能と所蔵資料を活かし取り組んでいたものの、独立したビジネス支援コーナーを設けることは困難であったため運営の中での工夫にとどまっていた。

そこで、中野東図書館の開館を契機とし、図書館が産業支援ネットワークのひとつの機関として認識されるよう働きかけることが必要である。そのためには、図書館で行うことができる情報支援サービスをこちらから出向いて積極的に売り込んでいくことが求められる。

#### 3-2 区内産業支援機関による支援策の紹介

中野区内の産業支援機関が実施している支援策をビジネス・コミュニティフロアにチラシ・パンフレット類を設置することにより紹介する。さらに、支援策の活用事例やビジネスコンテストの受賞事例をパネルまとめ、関連する図書館資料・調べ方を紹介することで、実践的な図書館の活用方法をアピールすることもできる。

##### 【事業案1】「ビジコンなかの」との連携によるパネル展示

「ビジコンなかの」は、西武信用金庫と中野区、三井住友海上火災保険株式会社が共同で開催する中野区ビジネスプランコンテストである。募集内容は、中野区が重点産業と位置づける「ICT・コンテンツ関連産業」「ライフサポート関連産業」に関するビジネスプランを対象としている。

この事業を実施することの効果として、上記の実践的な図書館活用方法のアピールに加え、①「ビジネスプラン」「ICT・コンテンツ産業」「ライフサポート産業」に関連する資料の収集することで、ビジネス支援関連資料だけでなく、中野区が重点的に支援する分野の情報収集を強化することにつながる、②コワーキングコーナーの一角に展示スペースを設け「ビジコンなかの」の概要と過去の受賞プランを紹介することで、コワーキングコーナーの利用者が自然に情報に接する環境が作り出され、自身のアイデアをビジネスとして実現するという潜在的ニーズの掘り起こしが期待される、という2点が挙げられる。

### 3-3 支援策を通じた交流

中野東図書館のコワーキングコーナーはレイアウト変更可能な流動的スペースであり、プレゼンテーションコーナーとしても活用が可能である。このスペースと図書館という多様な背景を持つ人々が集まる場であることの2つの特性を活かせば、イベント開催やテストマーケティングの場として活用すること等により、参加型のゆるやかなつながりを提供することができる。

#### 【事業案2】区内で支援策を活用し起業した方を招いた講演会の開催

中野区産業振興センターによる「なかのビジネス創造塾」、東京商工会議所中野支部による地域密着型創業支援セミナー「中野 de 創業塾」、西武信用金庫による中野・杉並での創業を目指す「実践！創業セミナー」等、中野区内では各機関が起業のためセミナーを実施している。また、東京都がコンテンツ関連産業に特化して中野区に開設した東京コンテンツインキュベーションセンター(TCIC)では、起業家にレンタルオフィスを提供するだけでなく、常駐の起業支援メンバーが、創業期まもない入居者にワンストップの経営支援等を実施している。このように区内では様々な支援が提供されており、その支援を受けた起業家が多く生まれている。

この事業を実施することの効果として、①事例に触れることで起業がより身近になる、②講演会を通じ起業という共通の関心のある人々と交流できる、③支援策や図書館の活用方法等のアピールになる、という3点が挙げられる。特に、オープンスペースで実施することにより、講演会を目的とした人だけでなく、たまたま立ち寄った人へも交流が広がる可能性を秘めている。

#### 【事業案3】テストマーケティングの場としての活用

ビジネス・コミュニティフロアという図書館におけるビジネス支援を行う場とテストマーケティングは比較的親和性が高いと思われる。官民連携による実証実験であれば以前より行われており、中野区においても観光・防災計画でのデータ活用を目的としてIoTによる動線解析の実証実験等が行われている<sup>7)</sup>。さらに渋谷区では2020年6月から実証実験事業を立ち上げ、スタートアップ企業などから新しいテクノロジーやアイデアを募集し、実証実験を通じ起業を支援している<sup>8)</sup>。

この事業を実施することの効果として、①区内事業者はテストマーケティングの場を得ることができる、②図書館利用者はテストマーケティングを通じ区内事業者の取り組みに参加できる、という2点が挙げられる。テストマーケティングへの参加が、区内事業者やそのサービスを身近に感じるきっかけとなり、自らとコミュニティとをゆるやかにつなぐことができるであろう。

#### 4. おわりに

公共図書館には多様な背景を持つ均質的ではない人々がやってくる。中野区は2021年3月に中野区基本構想を改定し、10年後に目指すまちの将来像を「つながる はじまる なかの」として描いている。図書館においても、ビジネス支援、特に今回取り上げた創業支援を通じて人々の「つながる」「はじまる」の実現は可能なのではないかと考える。

- 
- 1) 「令和4年1月4日 岸田内閣総理大臣年頭記者会見」首相官邸  
([https://www.kantei.go.jp/jp/101\\_kishida/statement/2022/0104nentou.html](https://www.kantei.go.jp/jp/101_kishida/statement/2022/0104nentou.html))
  - 2) 「働き方改革実行計画（概要） 平成29年3月28日 働き方改革実現会議決定」  
([https://www.kantei.go.jp/jp/singi/hatarakikata/pdf/gaiyou\\_h290328.pdf](https://www.kantei.go.jp/jp/singi/hatarakikata/pdf/gaiyou_h290328.pdf))
  - 3) 厚生労働省 HP 政策について>分野別の政策一覧>雇用・労働>労働基準>「副業・兼業」  
(<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000192188.html>)
  - 4) 「テレワーク実施率調査結果」東京都産業労働局, 2022年1月7日  
(<https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2022/01/07/06.html>)  
都内企業（従業員30人以上）テレワーク実施率は56.4%。テレワークを実施した社員の割合は44.5%、テレワークの実施回数は週3日以上の実施が45.6%となっている。
  - 5) 「第6回 働く人の意識調査」公益財団法人日本生産性本部, 2021年7月16日  
(<https://www.jpc-net.jp/research/detail/005361.html>)  
2020年7月以降、兼業・副業の実施意向を継続的に質問している。最新の2021年7月の調査では、「現在、兼業・副業を行っている」が7.2%、「現在は行っていないが将来的には行ってみたい」が37.5%となっている。
  - 6) 「満足度・生活の質に関する調査報告書2021 ～我が国のWell-beingの動向～」内閣府政策統括官（経済社会システム担当）, 2021年9月  
(<https://www5.cao.go.jp/keizai2/wellbeing/manzoku/pdf/report05.pdf>)  
分野別満足度において「社会とのつながり」の満足度が低下している。
  - 7) 「中野区における地域経済・観光の活性化、防災計画でのデータ活用を目的としてIoTによる実証実験がスタート」  
(<http://www.areaportal.co.jp/new08/new4013.html>)
  - 8) 「Innovation for New Normal from Shibuya」  
(<https://shibuya.throttle.biz/innovation/>)

#### 参考文献

- 『新しい中野をつくる10か年計画（第3次）』中野区, 2016年5月  
([https://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/dept/101500/d022641\\_d/fil/AllText.pdf](https://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/dept/101500/d022641_d/fil/AllText.pdf))
- 『中野区勢概要 平成29年度版（2017年度版）』中野区, 2018年3月  
([https://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/dept/102500/d010287\\_d/fil/kuseigaiyou2017.pdf](https://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/dept/102500/d010287_d/fil/kuseigaiyou2017.pdf))

「新図書館等運営計画委託報告書」未来創造プロジェクト，2018年9月27日  
([https://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/dept/651500/d026570\\_d/fil/zenbun.pdf](https://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/dept/651500/d026570_d/fil/zenbun.pdf))

『第61回 中野区統計書 令和3年(2021年)』中野区，2021年3月  
([https://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/dept/152000/d030365\\_d/fil/toukeishoR3-kami.pdf](https://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/dept/152000/d030365_d/fil/toukeishoR3-kami.pdf))

『中野区産業サポートブック 2021』中野区，2021年6月

『中野区基本計画 2021年度-2025年度』中野区，2021年9月  
([https://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/dept/101500/d026482\\_d/fil/kihonkeikaku-sassi.pdf](https://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/dept/101500/d026482_d/fil/kihonkeikaku-sassi.pdf))

[インターネット最終確認：2022年3月23日]